

運用報告書（全体版）

スーパーファンド・ジャパン サブファンド・システマティック・オールウェザー

ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て）

作成対象期間（第14期）：自 2022年1月1日 至 2022年12月31日

～ 受益者の皆様へ ～

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、当サブファンドの第14期の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ファンド形態	ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て）	
信託期間	信託設定日は2009年6月5日、償還日は設定日から150年後	
運用方針	マスターファンドの投資顧問会社が随時選定するテクニカル分析ソフトウェアを使用したトレーディング・シグナルに基づいて運用されます。当サブファンドのマスターファンドは、投資機会及び最新の取引戦略を利用することを目的とするため、将来の投資の特性に関して事前決定された展望を持たず、一切の制限も受けません。マスターファンド投資顧問会社は、サブファンドが、上場先物取引及び各種店頭デリバティブ（外国為替取引を含みます。）において過度の危険を冒さずにレバレッジ効果により高い収益が見込めると判断したときに、レバレッジを利用することができます。	
主要投資対象	当サブファンド	スーパーファンドSPCのサブファンドである分別ポートフォリオ・システマティック・オールウェザーの利益参加シェア
	マスターファンド	株式、債券、商品市場へのバランス投資、これに加えて、ゴールドクラスは金先物
分配方針	現段階では分配を行う予定はありません。但し、管理会社はその裁量で分配を決定する権利を留保しています。	

（注1）本書中における米ドル及びユーロの円貨換算は、別段の表示のない限り、2023年5月10日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売相場場の仲値（1米ドル=135.15円、1ユーロ=148.23円）によります。

（注2）円貨への換算は、本書において該当する各数値につき、所定の換算率で単純計算の上、必要に応じて四捨五入しています。したがって、本書中の同一情報につき異なった数値で円貨表示がなされている場合があります。

【管理会社】

スーパーファンド・ジャパン・
トレーディング（ケイマン）リミテッド

【代行協会員】

スーパーファンド・ジャパン株式会社

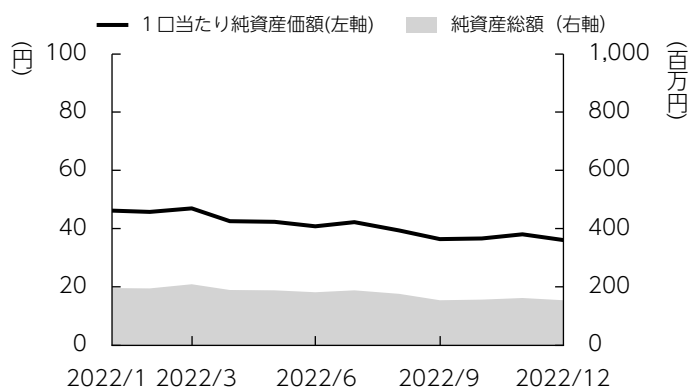
目次

1.	資産の運用の経過	P.	1
2.	運用状況の推移	P.	5
3.	ファンドの経理状況	P.	6
4.	費用の明細	P.	32
5.	当期末における純資産額計算書	P.	32
6.	投資の対象とする有価証券及びその他の資産	P.	33
7.	投資の対象とする不動産、金銭債権及び手形	P.	33
8.	お知らせ	P.	33

1. 資産の運用の経過

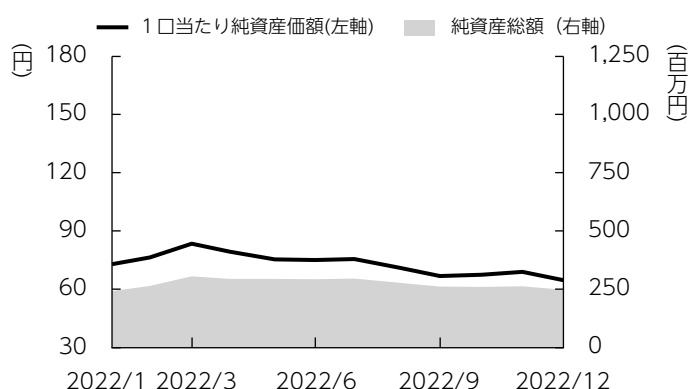
■当期の1口当たり純資産価額等の推移について（2022年1月1日～2022年12月31日）

円・クラス



第13期末の 1口当たり純資産価額	47.51円
第14期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0円)	36.18円
騰落率	△23.85%

ゴールド円・クラス



第13期末の 1口当たり純資産価額	76.18円
第14期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0円)	64.79円
騰落率	△14.95%

- (注1) 当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。
 (注2) 1口当たり純資産価額は、第13期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。
 (注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

■1口当たり純資産価額の主な変動要因

【円・クラス】

サブファンド・システムティック・オールウェザーは、シャープパリティ戦略を採用しています。シャープパリティ戦略では、リスク・リターンレシオが最大となる市場セグメントをポートフォリオ内で重くウェイト付けします。

スーパーファンドにより独自開発されたコンピューターによる完全自動化トレーディングシステムにより、株式、債券、商品市場等を投資対象として、ロングポジションのみでバランス投資を行い運用されます。よって、それら各市場の価格変動は、ファンドの純資産価額の変動に影響します。

【ゴールド円・クラス】

サブファンド・システムティック・オールウェザーは、シャープパリティ戦略を採用しています。シャープパリティ戦略では、リスク・リターンレシオが最大となる市場セグメントをポートフォリオ内で重くウェイト付けします。

スーパーファンドにより独自開発されたコンピューターによる完全自動化トレーディングシステムにより、株式、債券、商品市場等を投資対象として、ロングポジションのみでバランス投資を行い運用されます。よって、それら各市場の価格変動は、ファンドの純資産価額の変動に影響します。加えて、金価格に連動するようヘッジを行うため、金価格の上昇はキャピタルゲインの、金価格の下落はキャピタルロスの要因となります。

■投資環境について

2022年の世界経済は、インフレ率の上昇とその根本的原因の解明、そしてそれを抑制するための対策に大きく影響を受けました。インフレ圧力は2021年当初から始まり、継続的な供給不足、世界的なCovid-19パンデミックの影響、ロシアのウクライナ侵攻、国際エネルギー危機によって悪化しました。米国経済は、2021年は年率5.6%の成長を遂げましたが、2022年の大半は経済成長の鈍化に見舞われました。GDPは2022年最初の半年にかけて減少しましたが、第3四半期は、個人消費の拡大、賃金の上昇、雇用の増加、パンデミック時に積み立てた貯蓄などに支えられ、GDPが回復し、約3.2%の増加となりました。

株価指数については、理想的な年明けではありませんでした。2008年以来（リーマンショック以降）上昇を続けてきたいくつかの株式市場が大きな打撃を受け、特に米国は最も結果の良くない地域（セクター）のひとつでした。S&P500の下落幅の約半分を「メガキャップ」6社（Amazon、Apple、Alphabet、Microsoft、Meta Platform、Tesla）が占めていましたが、米国の主要企業の多くが数十億ドルを失う急激な株価下落に見舞われました。またナスダックは年間33.0%以上下落し、FRBの積極的なインフレ抑止政策がテクノロジー株や成長株に悪影響を及ぼしたため、マイナスになりました。英国株式は、他の多くのグローバル市場よりも回復力がありました。というのも、エネルギー関連銘柄の堅調な伸びと大きな為替差益に支えられたためです。また欧州の他の地域では、欧州株式市場が、高インフレ、ウクライナ戦争、イングランド銀行とECBによる金融引き締めが主な要因となり、年初において下落に転じました。しかし、これらの市場では、第4四半期にインフレ予想と石油・ガス・食料の大幅な価格上昇の両方が沈静化し、コスト圧力が幾分低下したため、大きな上昇を記録しました。アジアでは、出入国規制の正常化に伴う中国の株式市場への楽観的な見方により、2022年後半に株式が回復しましたが、あいにくアジア地域の主要指数をプラスに押し上げるほど大きなインパクトはありませんでした。

通常、株式が下落すると債券の価値が上昇するため、債券投資は安全な避難先とされていますが、その見込みは2022年には通用せず、株式と債券の両方のセクターで二桁の損失を被ることになりました。世界の債券市場では、主に中央銀行がインフレ対策として金利を引き上げたことが原因で、損失が発生しました。米国債券は、ここ数十年で最悪の年間リターンを記録し、10年物国債は約15%下落し、2年連続で損失を計上しました。米国債利回り（短期債と長期債の金利差）は、1年間の大半は逆イールドの状況でした。歴史的に、イールドカーブが反転することはしばしば景気後退の兆候とされてきましたが、一方で他の経済指標は、深刻な景気後退の可能性が低いことを示唆する状況も見受けられました。ドイツと英国の10年物国債の利回りは、これまでで最も高い年間上昇率を記録しましたが、イングランド銀行は、9月28日から10月14日まで、市況回復のために英国長期国債を一時的に買い入れることを発表しました。これまでユーロ圏の債券市場は、ECBの量的緩和とゼロ金利の影響により、価格変動が小さいことで知られていました。これは国債市場が、欧州市場の猛烈なインフレとそれに対処するための政策決定に関する不確実性にかき乱されたためです。またインフレ圧力は、中東、アフリカ、南米、カ

ナダ、メキシコの経済にも影響を与え、インフレ率の上昇はこれらの国々からの輸入品をより高価にし、中央銀行は金利の引き上げを余儀なくされました。中央銀行は利上げのペースと範囲の拡大が経済を悪化していることを認めましたが、消費者物価指数の低下が優先されました。

コモディティ分野では、既に2021年末に上昇していたエネルギー価格が、ロシアのウクライナ侵攻を契機に高騰しましたが、複数の国がロシアに対して制裁や貿易制限を課し、その結果ロシアの製油所の生産能力が低下しました。しかし、中国のエネルギー需要がCovid-19関連の規制により著しく減少したこと、ロシアの原油生産が安定したこと、米国の原油生産が増加したこと、戦略石油備蓄から原油が放出されたことなどにより、エネルギー価格はやや安定化しました。金にとって2022年は最も不安定な年のひとつとなりました。主に2月にロシアとウクライナの紛争が激化したために、金価格は2022年3月に2,075ドルの高値まで上昇しました。が、その後まもなく、株式市場の低迷、ドル為替レートの上昇、米国がウクライナ紛争に介入しなかったことなどが原因で後退しました。銀に関しては、2022年には金を上回り、3.52%のリターンで1年を終えました。工業用金属は、中国の経済復活とその回復に伴う工業生産高の向上を目指していましたが、低迷する結果となりました。農産物については、トウモロコシと大豆の価格高騰に見られるように、インフレは食品にも影響を与えました。ウクライナ戦争は、穀物の主要な輸送ルートが寸断されたため、世界の農業生産にマイナスの影響を与えました。しかし、トルコの仲裁により、キーウとモスクワの間でウクライナ産穀物の輸出に関する合意が成立し、状況は緩和されました。

2022年の外国為替市場は、米ドルが世界のほとんどの通貨に対して強く上昇し、外貨安をもたらし、財・サービス価格の上昇に影響をもたらしました。高インフレに対抗するためにFRBが金利を引き上げたため、米ドルは急激に上昇しました。これは、ロシアのウクライナ侵攻やエネルギー価格の高騰により、欧州経済が景気後退に向かうという市場の見立てを示すもので、2022年7月12日に20年ぶりにユーロが対米ドルで等価となりました（1ユーロ＝1米ドル）。英国では、リズ・トラス首相（当時）の減税案により、英国の金融・財政政策が衝突し、中央銀行が危険に晒されるおそれがありました。このような政策がもたらす潜在的な負担は英国市場に大きな圧力を与え、英国ポンドは2022年9月に対米ドルで1.035という史上最低水準まで急落しました。日本円は、投資家にとって典型的な安全資産とされていますが、Covid-19から日本経済が徐々に再開されるにつれ、2022年の値動きが活発化しました。日本銀行の非伝統的なユニークな金融政策によって日本円は支えられたものの、依然、強い米ドルに対して円安が進行しました。

2022年の株式市場の混乱は、分散投資が依然として有効な面もありますが、過去に比べればその効果が薄れている可能性があることを示しました。

■ポートフォリオについて

<当サブファンド>

当サブファンドは、マスターファンドへの投資によって当該マスターファンドと同一の投資目的を追求しました。結果、マスターファンドへの投資比率は、概ね95%以上を維持しました。

<マスターファンド>

マスターファンドは、世界株式、世界債券、コモディティ、為替、キャッシュの主要な投資資産に分散投資するバランスファンドです。マーケット環境により各セクターへの投資比率を機動的にリバランスします。基本となるロングオンリー・ポートフォリオに、キャッシュ比率の引上げやクライシス・アルファの組入れにより、機動的に弱気相場や金融危機時にリスクオフをはかり、グローバルな全天候型戦略を構築いたします。

本戦略は2020年より戦略変更を行いスタートいたしました。2022年は、米国を中心とした金利上昇局面が継続し、組み入れ比率の高い債券セクターの下落がパフォーマンスの棄損に大きく影響しました。

■今後の運用方針

2023年7月1日付で、当サブファンドの名称はサブファンド「システムティック・オールウェザー」から、サブファンド「レインボー・オールシーズンズ」へと変更されました。運用戦略は変わらずシャーパリティ戦略を採用し、今後の運用方針についても、これまでの投資方針が引き続き採用され、マスターファンドと同一の投資目的を追求する予定です。

■分配金について

当サブファンドには分配金はありません。

2. 運用状況の推移

当サブファンドは2018年1月1日に運用を開始したため、当該計算期間以前の計算期間に係る純資産総額、1口当たり純資産価額、及び収益分配金に関する情報は存在しません。

当サブファンドの収益率は以下のとおりです。

年度	収益率	
	円・クラス ^(注)	ゴールド円・クラス
自2018年1月1日 至2018年12月31日	-27.45%	-30.85%
自2019年1月1日 至2019年12月31日	-22.23%	-8.41%
自2020年1月1日 至2020年12月31日	+3.29%	+10.51%
自2021年1月1日 至2021年12月31日	+10.41%	+16.82%
自2022年1月1日 至2022年12月31日	-23.85%	-14.95%

(注) 2020年1月1日付の戦略変更以前は「サブファンド・ブルー 円ヘッジ有・クラス」として運用されていました。

当サブファンドの純資産総額及び1口当たり純資産価額の推移は以下のとおりです。

円・クラス		純資産総額 (円)	1口当たりの純資産価額 (円)
		2018年12月	107,994,977
	2019年12月	77,319,294	41.66
	2020年12月	66,812,165	43.03
	2021年12月	187,748,935	47.51
	2022年12月	154,083,753	36.18
ゴールド円・クラス		純資産総額 (円)	1口当たりの純資産価額 (円)
		2018年12月	218,335,809
	2019年12月	175,257,399	59.01
	2020年12月	189,205,761	65.21
	2021年12月	244,374,590	76.18
	2022年12月	248,008,244	64.79

(注1) 1口当たりの純資産価額は、小数点以下第2位まで計算されています。

(注2) 過去の業績は、将来の業績を示し保証するものではありません。

(注3) 「円・クラス」は、2020年1月1日付の戦略変更以前は「サブファンド・ブルー 円ヘッジ有・クラス」として運用されていました。

2018年12月31日、2019年12月31日、2020年12月31日、2021年12月31日及び2022年12月31日に終了した計算期間において、確定した分配金はありません。

3. ファンドの経理状況

当サブファンドが含まれている「スーパーファンド・ジャパン」の経理状況は以下の通りです。なお、マスターファンド及びアンダーライング・マスターファンドの財務諸表については、EDINET（金融庁の開示書類閲覧ホームページ <https://disclosure2.edinet-fsa.go.jp/>）に開示された有価証券報告書等（ファンドコード「G07555」）をご覧ください。

スーパーファンド・ジャパン—サブファンド・グリーン 貸借対照表

2022年12月31日現在

（単位：日本円）

	注記	
資産		
ファンドへの投資（公正価値） （原価：2,694,563,551円）	2(b), 3, 11	2,643,192,097
ファンドへの投資に関する未収金		779,526
現金		16,689,058
外貨建て現金（原価：2,894,168円）		2,745,644
その他の資産		1,797,354
		2,665,203,679
負債		
前受申込金		5,120,000
投資有価証券の取得に係る支出		10,779,526
未払金及び未払費用	5, 8, 10	4,222,650
		20,122,176
純資産		2,645,081,503

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

	米ドル	円
ゴールド円クラス受益証券 1口当たり純資産： 発行済9,753,479口に基づく (2022年12月31日現在におけるゴールド円クラスの株式の価値合計：5,314.82オンス(金)) (2022年12月31日現在の金価格：239,153.01円)	—	130.32
	0.001オンス(金)	
シルバー円クラス受益証券 1口当たり純資産： 発行済1,559,439口に基づく (2022年12月31日現在におけるシルバー円クラスの株式の価値合計：49,449.93オンス(銀)) (2022年12月31日現在の銀価格：3,139.50円)	—	99.55
	0.032オンス(銀)	
円・クラス受益証券 1口当たり純資産： 発行済9,009,299口に基づく(単位：円)	—	69.48
ゴールド米ドル・クラス受益証券 1口当たり純資産： 発行済608,437口に基づく (2022年12月31日現在におけるゴールド米ドル・クラスの株式の価値合計：335.28オンス(金)) (2022年12月31日現在の金価格：239,153.01円)	1.01	136.50
	0.001オンス(金)	
シルバー米ドル・クラス受益証券 1口当たり純資産： 発行済2,333,353口に基づく (2022年12月31日現在におけるシルバー米ドル・クラスの株式の価値合計：109,545.32オンス(銀)) (2022年12月31日現在の銀価格：3,139.50円)	1.12	151.37
	0.047オンス(銀)	
米ドル・クラス受益証券 1口当たり純資産： 発行済1,725,473口に基づく(単位：米ドル)	0.75	101.36

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパン-サブファンド・グリーン
投資明細書

2022年12月31日現在

(単位：日本円)

銘柄（純資産における％）	償還条件	株式数	原価	公正価値
ファンドへの投資（公正価値）（99.93%）				
マネージドフューチャーズ				
スーパーファンド・グリーン・ゴールド SPC B：クラスBジャパン（円）及び クラスBジャパン（米ドル） （51.02%）	週次	964,285.25	1,376,419,063	1,349,491,742
スーパーファンド・グリーン SPC B：クラスBジャパン（円）、 クラスBジャパン（米ドル）、 クラスBジャパン（シルバー米ドル）及び クラスBジャパン（シルバー円） （48.91%）	週次	1,166,114.46	1,318,144,488	1,293,700,355
ファンドへの合計投資額（公正価値） （99.93%）		円	<u>2,694,563,511</u>	<u>2,643,192,097</u>

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパン-サブファンド・グリーン
損益計算書

2022年12月31日に終了した年度

(単位：日本円)

	注記	
費用		
事務管理報酬	10	1,207,500
専門家報酬		4,997,804
受託会社報酬	9	1,333,635
代行協会員報酬	8	2,476,095
管理報酬	5	2,476,014
その他の費用		1,280,083
		13,771,131
正味投資損失		(13,771,131)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益/（損失）の変動		
投資及び外貨に係る正味実現利益		238,845,135
投資及び外貨に係る未実現損失の変動		(383,483,310)
		(144,638,175)
営業活動から生じた純資産の正味減少額		(158,409,306)

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン
純資産変動計算書

2022年12月31日に終了した年度

(単位：日本円)

営業活動

正味投資損失	(13, 771, 131)
投資及び外貨に係る正味実現利益	238, 845, 135
投資及び外貨に係る未実現損失の変動	(383, 483, 310)
	<hr/>
	(158, 409, 306)

資本取引

ゴールド円クラス受益証券の発行	493, 860, 024
シルバー円クラス受益証券の発行	161, 464, 268
円クラス受益証券の発行	141, 949, 268
ゴールド米ドル・クラス受益証券の発行	75, 935, 090
米ドル・クラス受益証券の発行	23, 831, 957
シルバー米ドル・クラス受益証券の発行	324, 257, 014
ゴールド円クラス受益証券の買戻し	(474, 844, 264)
円クラス受益証券の買戻し	(52, 332, 047)
シルバー円クラス受益証券の買戻し	(1, 033, 000)
ゴールド米ドル・クラス受益証券の買戻し	(13, 582, 154)
米ドル・クラス受益証券の買戻し	(28, 980, 529)
	<hr/>
	650, 525, 627

当期純資産増加額

492, 116, 321

期首純資産残高

2, 152, 965, 182

期末純資産残高

2, 645, 081, 503

期末純資産の内訳：

ゴールド円クラス	1, 271, 056, 197
ゴールド米ドル・クラス	80, 183, 485
円クラス	625, 993, 630
米ドル・クラス	168, 681, 909
シルバー円クラス	155, 248, 277
シルバー米ドル・クラス	343, 918, 005
	<hr/>
	2, 645, 081, 503

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・グリーンCジャパン
貸借対照表

2022年12月31日現在

(単位：日本円)

	<u>注記</u>	
資産		
マスターファンドへの投資		238,951,236
現金		10,421,288
		<u>249,372,524</u>
負債		
未払金及び未払費用	3, 5, 7	915,706
		<u>915,706</u>
純資産		<u><u>248,456,818</u></u>

	<u>米ドル</u>	<u>円</u>
円クラス受益証券1口当たり純資産：		
発行済2,064,114口に基づく(単位：日本円)	—	65.30
米ドル・クラス受益証券1口当たり純資産：		
発行済1,435,539口に基づく(単位：米ドル)	0.60	81.09

添付の注記並びにスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・マスターの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・グリーンCジャパン
損益計算書

2022年12月31日に終了した年度

(単位：日本円)

	<u>注記</u>	
マスターファンドから配分された正味投資損失		
受取利子		2,282,770
費用		(26,536,917)
		<u>(24,254,147)</u>
サブファンドの費用		
代行協会員報酬	7	1,140,919
受託会社報酬	9	1,333,635
事務管理報酬	8	332,280
管理報酬	5	368,355
専門家報酬		634,661
支払利息		54
その他費用		(1,398,046)
		<u>2,411,858</u>
正味投資損失		<u>(26,666,005)</u>
サブファンドの外貨に係る実現及び未実現利益の変動		
外貨に係る正味実現利益		680,783
外貨に係る未実現利益の変動		8,398
		<u>689,181</u>
マスターファンドから配分された投資及び外貨に係る 正味実現損失及び未実現利益の変動		
投資及び外貨に係る正味実現損失		(73,548,741)
投資及び外貨に係る未実現利益の変動		31,155,915
		<u>(42,392,826)</u>
営業活動から生じた純資産の正味減少額		<u><u>(68,369,650)</u></u>

添付の注記並びにスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・マスターの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・グリーンCジャパン
純資産変動計算書

2022年12月31日に終了した年度

(単位：日本円)

営業活動

正味投資損失	(26,666,005)
投資及び外貨に係る正味実現損失	(72,867,958)
投資及び外貨に係る未実現利益の変動	31,164,313
	<hr/> (68,369,650)

資本取引

円クラス受益証券の買戻し	(49,533,719)
米ドル・クラス受益証券の買戻し	(12,268,432)
	<hr/> (61,802,151)

当期純資産減少額

(130,171,801)

期首純資産残高

378,628,619

期末純資産残高

248,456,818

期末純資産の内訳：

円クラス	134,790,697
米ドル・クラス	113,666,121
	<hr/> <hr/> 248,456,818

添付の注記並びにスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・マスターの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー
 貸借対照表

2022年12月31日現在

(単位：日本円)

	注記	
資産		
マスターファンドへの投資		388,153,429
現金		15,106,308
外貨建て現金（原価：462,221円）		497,342
その他資産		1,805,334
		405,562,413
負債		
前受申込金		200,000
未払金及び未払費用	3, 5, 7	1,140,417
マスターファンドへの未払金		2,130,000
		3,470,417
純資産		402,091,996
ゴールド円クラス受益証券1口当たり純資産		
発行済3,827,813口に基づく		
(単位：日本円)		64.79円
円クラス受益証券1口当たり純資産		
発行済4,258,577口に基づく		
(単位：日本円)		36.18円

添付の注記並びにスーパーファンドSPCの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システマティック・オールウェザー
損益計算書

2022年12月31日に終了した年度

(単位：日本円)

	注記	
マスターファンドから配分された正味投資損失		
受取利息		225,482
費用		(13,955,204)
		(13,729,722)
サブファンドの費用		
受託会社報酬	9	1,333,635
販売報酬	7	2,054,248
専門家報酬		1,205,299
事務管理報酬	10	1,046,831
管理報酬	5	455,424
代行協会員報酬	8	315,826
支払利息		80
その他の費用		2,251,674
		8,663,017
正味投資損失		(22,392,739)
サブファンドの外貨に係る実現損失及び未実現利益の変動		
外貨に係る正味実現損失		(417,080)
外貨に係る未実現利益の変動		88,370
		(328,710)
マスターファンドから配分された投資及び外貨に係る 正味実現損失及び未実現利益の変動		
投資及び外貨に係る正味実現損失		(92,613,781)
投資及び外貨に係る未実現利益の変動		20,668,108
		(71,945,673)
営業活動から生じた純資産の正味減少額		(94,667,122)

添付の注記並びにスーパーファンドSPCの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー
純資産変動計算書

2022年12月31日に終了した年度

(単位：日本円)

営業活動

正味投資損失	(22,392,739)
投資及び外貨に係る正味実現損失	(93,030,861)
投資及び外貨に係る未実現利益の変動	20,756,478
	<u>(94,667,122)</u>

資本取引

ゴールド円クラス受益証券の発行	61,230,000
円クラス受益証券の発行	25,870,000
ゴールド円クラス受益証券の買戻し	(12,370,773)
円クラス受益証券の買戻し	(9,379,326)
	<u>65,349,901</u>

当期純資産減少額

(29,317,221)

期首純資産残高

431,409,217

期末純資産残高

402,091,996

期末純資産残高の内訳：

ゴールド円クラス	248,008,244
円クラス	154,083,752
	<u>402,091,996</u>

添付の注記並びにスーパーファンドSPCの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記

2022年12月31日現在

(単位：日本円及び米ドル)

1. 設立及び主な活動

スーパーファンド・ジャパン（以下、「当信託」という。）は、UBSファンド・サービシズ（ケイマン）リミテッド（以下、「退任受託会社」という。）及びスーパーファンド・ジャパン・トレーディング（ケイマン）リミテッド（以下、「管理会社」という。）の間で締結された信託証書（以下、「信託証書」という。）に従ってケイマン諸島の法律に基づいて設立された。当信託は、信託証書に従ってケイマン諸島の信託法に基づいて2009年6月5日に組織され、2009年6月29日にケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法セクション4（1）（b）に基づいて登録された。当信託の旧名称はスーパーファンド・グリーン・ゴールド・ジャパンであった。当信託の名称は2018年1月1日にスーパーファンド・ジャパンへ変更された。退任・指名・変更証書に従い、2015年5月8日付でハーニーズ・フィデューシャリー（ケイマン）リミテッド（以下、「受託会社」という。）が当信託の受託会社に指名された。受託会社の当信託に関する主な営業拠点はケイマン諸島である。

当信託はオープン・エンド型のアンブレラ・ファンドであり、スーパーファンド・ジャパン サブファンド・グリーン、スーパーファンド・グリーンCジャパン及びスーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザー（以下、それぞれ「サブファンド」、及び総称して「サブファンズ」という。）が設定されている。各サブファンドは独立した資産及び負債のプールとして、他のサブファンドと分別して管理されている。

管理会社は当信託の再編を行うことを希望し、2020年12月18日に受託会社は2021年1月1日からこの再編を実施することを決議した。

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンは、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCの分別ポートフォリオBに投資している。

スーパーファンド・グリーンCジャパンは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーンSPC（以下、「グリーン・マスターファンド」という。）の分別ポートフォリオCに投資している。

スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーン・ゴールド・マスターSPC（以下、「グリーン・ゴールド・マスターファンド」という。）のスーパーファンド・グリーン・ゴールド・マスター・分別ポートフォリオに投資している。グリーン・ゴールド・マスターファンドの目的は、テクニカル分析の利用を通じて長期のキャピタル・ゲインを達成することである。グリーン・ゴールド・マスターファンドは、金先物を含む様々な種類の先物契約にその資産を投資しており、金現物にも投資する場合がある。

グリーン・マスターファンド、すなわちスーパーファンド・グリーンSPCは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーン・マスター（以下、「グリーン・アンダーライニング・マスターファンド」という。）

に投資している。グリーン・アンダーライニング・マスターファンドの目的は、株式及び証券市場の動きの影響を受けない投資形態として、平均以上の長期的なキャピタル・ゲインを達成するための投資を投資家に提供することである。グリーン・アンダーライニング・マスターファンドは、投資機会及び取引戦略を利用する意向であるため、対象とする先物投資の特性に関する見解を事前に決めているわけではなく、どのような制約も受けることはない。

2021年7月1日付で、スーパーファンド・シャープパリティは、その名称をスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザーへ変更した。

スーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンドSPC（以下、「システムティック・オールウェザー・マスターファンド」という。）の分別ポートフォリオであるシステムティック・オールウェザー・ファンドに投資している。

システムティック・オールウェザー・マスターファンドの主な目的は、先物及び／又は先渡契約のレバレッジ取引を通じて資産増加を達成することである。システムティック・オールウェザー・ファンド分別ポートフォリオは主にロングオンリーのリスクパリティ戦略を採用し、この目的を追求する。この戦略は、スーパーファンドにより独自開発されたコンピューターによる完全自動化トレーディングシステムにより運用される。さらに他の戦略も限られた重みづけで合わせて使用される可能性がある。また、これらの戦略は、先物及び／又は先渡契約を空売りする可能性がある。

グリーン・マスターファンド及びシステムティック・オールウェザー・マスターファンドを総称して「マスターファンド」という。グリーン・アンダーライニング・マスターファンドは「アンダーライニング・マスターファンド」という。

管理会社は、代行協会員契約に従って、スーパーファンド・ジャパン株式会社（以下、「販売会社」という。）を当信託の日本における代行協会員に選任している。代行協会員は1口当たり純資産価額を公表し、日本証券業協会（以下、「JSDA」という。）に財務諸表を提出する責任を有している。当信託の年次監査済財務諸表は、日本における開示義務の一環として有価証券報告書及び有価証券届出書に含まれており、関東財務局に提出されている。グリーン・マスターファンド、グリーン・アンダーライニング・マスターファンド及びシステムティック・オールウェザー・マスターファンドの財務諸表は本報告書に含まれており、当信託の財務諸表と共に読まれるべきである。

2. 重要な会計方針

当財務諸表は、米国会計基準審議会（以下、「FASB」という。）の会計基準編纂書（以下、「ASC」という。）に詳述される米国で一般に公正妥当と認められる会計原則（以下、「GAAP」という。）に従って作成されている。当信託はGAAPにおける投資会社に該当するため、FASB ASC 946「金融サービス—投資会社」に規定される投資会社向けの会計・報告指針に従っている。

当信託が適用した重要な会計方針は以下のとおりである。

(a) 見積りの使用

GAAPに準拠した財務諸表の作成にあたって、経営陣は、財務諸表日現在の資産及び負債の報告金額並びに偶発資産及び負債の開示、並びに当報告期間中の収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を行うことが求められている。実際の結果は、それらのお見積りとは異なる可能性がある。

(b) ファンドへの投資（公正価値）

投資ファンドへの投資は、その純資産価額（以下、「NAV」という。）で表示されており、投資ファンドの経営陣により報告される。投資ファンドに適用される契約上の買戻し及び流動性に関する条件に基づいて、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンが保有する投資ファンドにおける持分を売却する際には、当該投資ファンドのNAV報告額のうち該当する金額で、当該投資ファンドと共に取引が行われる。ASU-2015-07により、実務上の簡便法としてNAVを用いて投資対象の公正価値を測定し、これらのすべての投資対象を公正価値の階層に分類するための要件が撤廃された。実務上の簡便法としてNAVを用いて算出された2022年12月31日現在の資産額は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンが2,643,192,097円であった。

添付の損益計算書において、投資ファンドへの投資に係る正味実現利益及び未実現利益は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンに対して生じた利息、配当、費用、有価証券の取引に係る実現損益及び未実現損益、並びに投資ファンドからの報酬の持分相当額を含めて計上した。評価には不確実性を伴うため、NAVの見積もりは、既存の証券市場が存在した場合に使用されると考えられる価値、又は自己売買により得られる可能性のある価値と異なる場合があり、その差異が大きい可能性がある。

(c) マスターファンドの分別ポートフォリオへの投資

マスターファンドの分別ポートフォリオへの投資は、取引日基準で会計処理されている。投資は当初は原価で測定され、当初認識後は公正価値で測定される。公正価値は、当信託に帰属する純資産（マスターファンドの事務管理会社により報告される。）に基づき決定される。投資に係る実現損益及び未実現損益は、損益計算書に計上される。マスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドの投資に関する評価方針は、本報告書に含まれているマスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドの財務諸表注記に記載されている。

(d) 投資収益及び費用

各サブファンドは、期首現在のマスターファンドの分別ポートフォリオの純資産価額に対する持分割合に基づき、マスターファンドの分別ポートフォリオの収益、費用並びに実現損益及び未実現損益の持分相当額を、週次で損益計算書に計上している。また、各サブファンドの収益及び費用についても発生主義で計上している。

(e) 1口当たり純資産価額

1口当たり純資産価額（以下、「1口当たりNAV」という。）は、日本円、米ドル及び金の単位オンズで表示されており、特定のクラスに帰属するサブファンドの純資産価額を、計算時における当該クラスの発行済み受益証券口数で除し、金の単位オンズで表示されている受益証券については、さらに評価日におけるロンドンの金1オンズ当たりの午前決め値で除することで計算される。

(f) 受取利息及び支払利息

受取利息及び支払利息は発生主義で計上されている。

(g) 現金

現金は日本円建て及び外貨建ての要求払いの預金及び利付預金から構成されており、いずれも当初の満期が3ヶ月以内で流動性が高いとみなされている。

(h) 外貨

外貨建て又は外貨で会計処理される資産及び負債は、貸借対照表日現在で適用される為替レートで日本円に換算される。外貨建て取引は取引日の為替レートで日本円に換算される。換算によって生じる実現損益及び未実現損益は、損益計算書に含まれる。当信託は投資に係る為替レートの変動により生じる損益と保有有価証券の市場価格の変動により生じる損益を区別していない。このような変動は、投資及び外貨に係る正味実現損益及び未実現損益に含まれる。

(i) 法人税等

ケイマン諸島では、収益又は利益に対して課税されることはなく、当信託は、税制優遇措置法第6条に従って、2059年6月5日までの期間における将来の収益又は利益に関するすべての現地における税金を免除する旨の誓約をケイマン諸島の総督より受け取っている。よって、法人税等に関する引当金はこれらの財務諸表に含まれていない。

当信託は、税務調査が実施された場合に、テクニカル・メリットに基づいて容認される可能性が高い（50%超の確率）不特定のタックス・ポジションについてのみ税務便益を認識している。当信託は、すべての主要な税管轄区域におけるすべての税務調査対象年度について分析を行っている。税務調査対象年度とは、各管轄区域の出訴期限法で定義された税務当局による税務調査の対象となりうる年度である。

経営陣は、当信託のタックス・ポジションを分析した結果、未確定のタックス・ポジションに関して、税務費用に係る負債又は税務便益に係る資産を計上する必要はないと判断した。さらに経営陣は、今後12ヶ月の間に未認識の税務便益の合計額が著しく変化する合理的な可能性のあるタックス・ポジションも存在しないと考えている。

(j) 収益及び費用の配分

特定のサブファンドに関連付けることが可能な収益及び費用は、純資産価額の算定において、各サブファンドに配分又は費用計上されている。その他の収益及び費用は、サブファンド間で比例配分されるか、あるいは受託会社の判断により配分されている。

(k) ファンドへの投資に関する未収金

未収金は、買戻通知で請求する金額が確定した時点で資産に計上される。一般的に、未払金は、その請求の性質に応じて、対象投資ファンドが当該通知を受領した時点又は会計年度の最終日の時点で発生する場合がある。

(l) マスターファンドからの未収金

マスターファンドからの未収金は、マスターファンドが未払いの買戻金額である。

(m) 前受申込金

前受申込金は申込みの通知を受領し、申込金額を受領した時点で計上されている。

(n) 公正価値による投資の評価 — 定義及び階層

USGAAPは公正価値の階層を規定しており、公正価値を測定する際に用いられる評価手法への入力データの優先順位を、以下に説明される3つのレベルに分類している。

- レベル1： 活発な市場における同一資産又は負債について経営陣が入手可能な未調整の相場価格に基づく評価。レベル1の有価証券に対しては、評価調整及び大量保有による割引価値の利用は適用されない。評価は活発な市場において容易にかつ定期的に入手可能な相場価格に基づいているため、当該レベルに分類される有価証券の評価については重要な判断は必要とされない。
- レベル2： 活発でない市場における相場価格、あるいは重要なデータがすべて直接又は間接的に観察可能な価格に基づく評価。
- レベル3： 公正価値測定全体に対して重要であるが観察不能なデータに基づく評価。

マスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドが保有する投資の公正価値の階層については、本報告書に含まれているそれぞれの財務諸表の注記に開示されている。

3. 金融商品

市場リスク、信用リスク及び流動性リスク

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン

通常の事業の過程において、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンは、市場リスク、信用リスク及び流動性リスクを招く可能性のある様々な金融商品を売買しており、そのリスクの金額は、財務諸表からは明白ではない。

市場リスクとは、金利、為替レート又は株式及びコモディティ価格の変動が、投資対象ファンド、結果的にスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンが保有しているポジションに影響を及ぼすリスクである。スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンは、これらのファンドが保有している投資対象を通じて、市場価格で評価されている金融商品に関して市場リスクにさらされている。

信用リスクとは、契約相手が債務不履行に陥るリスクである。信用リスクは、通常、取引所外で金融商品の取引を行う場合に高くなる。これは、取引所外で取引される金融商品の契約相手は、取引所清算機関の履行保証を受けていないためである。

流動性リスクとは、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンが目的を達成するために行う資金調達において困難が生じるリスクである。流動性リスクは、公正価値に近い金額で投資対象を速やかに売却できなかったことにより生じる場合がある。管理会社は、ファンドへの投資に際して、その株式又は受益証券を合理的な期間内に買い戻すための機会を提供するファンドを選んで投資することを目指すものの、買戻しが請求された際に、常に、その請求どおりに買戻し処理を行うのに十分なほど当該投資ファンドの投資対象が流動的であるとの保証はない。流動性が不足すると、受益証券の流動性及び投資価値に影響を及ぼす場合がある。

スーパーファンド・グリーンCジャパン及びスーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザー

スーパーファンド・グリーンCジャパン及びスーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーのマスターファンドへの投資は、これらを通じて間接的に、マスターファンドの投資対象である金融商品及び市場に関連する多様なリスクにさらされている。

スーパーファンド・グリーンCジャパン及びスーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーがさらされている金融リスクの種類は、市場リスク、信用リスク及び流動性リスクである。スーパーファンド・グリーンCジャパン及びスーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーがさらされている金融リスクに関しては、マスターファンドの財務諸表を参照のこと。

マスターファンドが保有する投資に関する詳細（投資を公正価値で測定する際に用いられる市場価格の観察可能性のレベルに関する内訳を含む。）については、本報告書に含まれているマスターファンドの財務諸表の注記2に開示されている。

4. 受益証券保有者資本

	口数
スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン	
ゴールド円クラス：	
期首残高	9,269,983
期中の発行	3,285,877
期中の買戻し	(2,802,381)
	<u>9,753,479</u>
スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン	
シルバー円クラス：	
期首残高	-
期中の発行	1,569,439
	<u>1,569,439</u>
スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン	
円クラス：	
期首残高	7,793,466
期中の発行	1,842,956
期中の買戻し	(627,123)
	<u>9,009,299</u>

	口数
スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン	
ゴールド米ドル・クラス：	
期首残高	199,421
期中の発行	501,424
期中の買戻し	(92,408)
	<u>608,437</u>
スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン	
シルバー米ドル・クラス：	
期首残高	-
期中の発行	2,333,353
	<u>2,333,353</u>
スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン	
米ドル・クラス：	
期首残高	1,751,688
期中の発行	211,797
期中の買戻し	(238,012)
	<u>1,725,473</u>
スーパーファンド・グリーンCジャパン	
円クラス：	
期首残高	2,758,361
期中の買戻し	(694,247)
	<u>2,064,114</u>
スーパーファンド・グリーンCジャパン	
米ドル・クラス：	
期首残高	1,550,687
期中の買戻し	(115,148)
	<u>1,435,539</u>

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・ オールウェザー	口数
ゴールド円クラス：	
期首残高	3,207,858
期中の発行	792,141
期中の買戻し	(172,186)
	3,827,813

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・ オールウェザー	
円クラス：	
期首残高	3,936,412
期中の発行	556,928
期中の買戻し	(234,763)
	4,258,577

各サブファンドには、最低申込単位が設定されている。スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン及びスーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーは、5,000口以上で100口ごとに申込みが可能で、スーパーファンド・グリーンCジャパンは、100,000口以上で100口ごとに申込みが可能である。販売会社は、管理会社と協議のうえ、特定の申込みについてはこれらの条件の全体又は一部を免除することができる。

信託証書に記載されている場合を除き、すべての受益証券は平等であり、ほぼ同等の権利及び条件を有している。

受益証券の申込みには申込手数料が適用される。特定の投資家の申込みに応用される申込手数料は、当該投資家による各シリーズの申込総額（以下、「購入金額」という。）に基づき決定される。各申込みに応用される申込手数料は、購入金額に5.40%（税抜きでは5%）を上限とする料率を乗じた金額である。

受益証券保有者は、通常、当信託の販売会社に書面による事前の通知を提示することにより、毎月最終日付ですべて又は一部の受益証券の買戻しを要求することができる。当該買戻しは、該当月の最終日に決定される受益証券1口当たり純資産価額で行われる。

当初申込みから12ヶ月以内に買戻請求が行われるか、あるいは当信託による強制的な買戻しが行われる場合、管理会社の単独の裁量により、当信託から受益証券保有者に対して、買戻価格の2%の買戻手数料が請求される可能性がある。当該買戻手数料の請求は当信託の利益のために行われる。

管理会社の単独の裁量により認められる場合を除き、受益証券保有者は、いかなる状況においても、買戻後の保有残高が各シリーズにおける最低当初投資額を下回るような一部買戻しを請求することはできない。

5. 管理報酬

当信託の投資活動は、共通支配下に置かれている関連当事者である管理会社により管理されている。投資顧問契約に基づいて、管理会社は、各サブファンドの純資産価額の0.1%（年率）相当の月次管理報酬を後払いで受領している。

2022年12月31日現在の未払金及び未払費用に含まれている未払管理報酬は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンが226,413円、スーパーファンド・グリーンCジャパンが21,891円、スーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーが34,962円である。

6. 成功報酬

各サブファンドのレベルで支払われる成功報酬はない。マスターファンドが支払う成功報酬については、本報告書に添付されているマスターファンドの財務諸表注記に開示されている。

7. 販売会社報酬

関連会社であるスーパーファンド・ジャパン株式会社（「販売会社」）はスーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーの販売会社として、スーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザー純資産価額の0.6%（年率）相当の報酬を毎月受領する権利を有している。

2022年12月31日現在、未払金及び未払費用に含まれている未払販売会社報酬は、スーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーの244,775円であり、そのほかのサブファンドについては未払販売会社報酬はない。その他のサブファンドにつきマスターファンドが支払う販売会社報酬については、本報告書に添付されているマスターファンドの財務諸表注記に開示されている。

8. 代行協会員報酬

代行協会員は、各サブファンドの純資産価額の0.1%（年率）相当の報酬を受領する権利を有している。

2022年12月31日現在、未払金及び未払費用に含まれている未払代行協会員報酬は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンが226,418円、スーパーファンド・グリーンCジャパンが21,892円、スーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーが34,968円である。

9. 受託会社報酬

2015年5月8日付で、ハーニーズ・フィデューシャリー（ケイマン）リミテッド（以下、「受託会社」という。）が、当信託の受託会社となった。

信託証書に規定されたとおり、当信託は、各サブファンドにつき年間8,500米ドルの報酬を受託会社に支払うことに合意している。

2022年12月31日に終了した年度において、サブファンドであるスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン、スーパーファンド・グリーンCジャパン及びスーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーに対する未払受託会社報酬はない。

10. 事務管理報酬

2022年4月1日付で、NAVファンド・アドミニストレーション・グループが当信託の事務管理会社に任命された（以下、「当管理会社」という。）。事務管理契約に基づいて、当信託はNAVファンド・アドミニストレーション・グループに対し、毎月最終評価日において計算された報酬を後払いで支払っており、その金額はスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン、スーパーファンド・グリーンCジャパン及びスーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーそれぞれにつき年間6,900米ドルである。2022年4月1日以前は、エイペックス・ファンド・サービシーズ・エス・エーが当信託の事務管理会社を務めていた。

2022年12月31日現在の未払金及び未払費用に含まれている未払事務管理報酬は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンが255,671円、スーパーファンド・グリーンCジャパンが255,671円、スーパーファンド・ジャパン サブファンド・システムティック・オールウェザーが157,336円である。

11. 関連当事者間取引

管理会社及び販売会社は、共通支配下に置かれている関連当事者である。管理会社及び販売会社に支払われる報酬は、独立第三者間条件に基づく交渉により設定されたものではない。

当信託は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンを通じて、スーパーファンドの投資会社グループの一部である対象ファンドへの投資を実行した。管理会社の取締役であるテニソン・ブリッグス（Tennyson Briggs）及びヨセフ・ホルツァー（Josef Holzer）が、対象ファンドの取締役も務めている。2022年12月31日現在、この対象ファンドが保有するスーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンの純資産の公正価値は、純資産において99.93%を占める2,643,192,097円である。期中において、その他のスーパーファンドの関連投資会社の売却と外貨建て取引に係る実現利益は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンが238,845,135円であった。

12. 公正価値

2022年12月31日現在、経営陣は、各クラスの金融商品の公正価値を見積るために以下の手法及び仮定を使用した。現金、外貨建て現金、ファンドへの投資に関する未収金、マスターファンドからの未収金、その他の資産、未払買戻金、前受申込金並びに未払金及び未払費用を含む当信託の特定の金融商品に関しては、これらの金融商品が直ちに期日を迎える又は短期的な性質のものであるため、帳簿価額は公正価値に近似している。

公正価値の見積りは、市況及び金融商品に関する情報に基づいて、特定の時点に行われる。これらの見積りは本来主観的なものであり、不確定要因及び重要な判断を伴うため、正確に行えるものではない。仮定の変更により、見積りに重要な影響を及ぼす可能性がある。マスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドが保有する投資の公正価値測定の分類に関する情報については、マスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドの財務諸表を参照のこと。

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記（続き）

2022年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13. 財務ハイライト
 スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン
 1株当たりの業績（期中発行済み受益証券1口に関して）⁽¹⁾

	ゴールド円クラス (円)	円クラス (円)	シルバー円クラス ⁽³⁾ (円)
期首受益証券1口当たりの純資産価額	140.71	80.12	100.00
投資活動による収入			
正味投資損失	(0.86)	(0.31)	(0.19)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現損失の変動	(9.53)	(10.33)	(0.26)
投資活動による損失合計	(10.39)	(10.64)	(0.45)
期末受益証券1口当たり純資産価額	130.32	69.48	99.55
総利回り ⁽²⁾	(7.39)%	(13.28)%	(0.45)%

補足情報：

平均純資産比率

営業費用及びその他費用

正味投資損失

0.55%	0.40%	0.18%
(0.55)%	(0.40)%	(0.18)%

(1) 期中平均発行済み口数に基づく。

(2) 各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

(3) シルバー円クラスは2022年9月1日に運用を開始した。上記の比率は年率に換算されていない。

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記（続き）

2022年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13. 財務ハイライト（続き）

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン
（続き）

1株当たりの業績（期中発行済み受益証券に関して）⁽¹⁾

期首受益証券1口当たり純資産価額

ゴールド米ドルクラス (米ドル)	米ドルクラス (米ドル)	シルバー米ドルクラス ⁽³⁾ (米ドル)
1.29	0.97	1.00

投資活動による収入

正味投資損失

投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益／（損失）の変動

投資活動による利益／（損失）合計

(0.03)	(0.01)	0.00
(0.25)	(0.21)	0.12
(0.28)	(0.22)	0.12

期末受益証券1口当たり純資産価額

1.01	0.75	1.12
------	------	------

総利回り⁽²⁾

(22.08) %	(23.13) %	12.00 %
-----------	-----------	---------

補足情報：

平均純資産比率

営業費用及びその他費用

正味投資損失

1.63 %	1.20 %	0.17 %
(1.63) %	(1.20) %	(0.17) %

(1) 期中平均発行済み口数に基づく。

(2) 各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

(3) シルバー米ドル・クラスは2022年9月1日に運用を開始した。上記の比率は年率に換算されていない。

スーパーフアランド・ジャパン

財務諸表注記（続き）

2022年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13. 財務ハイライト（続き）

スーパーフアランド・グリーンCジャパン

1株当たりの業績（期中発行済み受益証券1口に関して）⁽¹⁾

期首受益証券1口当たり純資産価額

投資活動による収入

正味投資損失

投資及び外貨に係る正味実現及び未実現損失の変動

投資活動による損失合計

期末受益証券1口当たり純資産価額

総利回り⁽²⁾

補足情報：

平均純資産比率

営業費用及びその他費用

正味投資損失

円クラス (円)	米ドルクラス (米ドル)
82.54	0.85
(6.06)	(0.06)
(11.17)	(0.19)
(17.23)	(0.25)
65.31	0.60
(20.87)%	(28.95)%

7.93%	8.21%
(7.32)%	(7.61)%

(1) 期中平均発行済み口数に基づく。

(2) 各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

スーパーフアوند・ジャパン

財務諸表注記（続き）

2022年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13. 財務ハイライト（続き）
スーパーフアوند・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー
1株当たりの業績（期中発行済み受益証券1口に関して）⁽¹⁾

	ゴールド円クラス (円)	円クラス (円)
期首受益証券1口当たり純資産価額	76.18	47.51
投資活動による収入		
正味投資損失	(3.67)	(2.05)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現損失の変動	(7.72)	(9.28)
投資活動による損失合計	(11.39)	(11.33)
期末受益証券1口当たり純資産価額	64.79	36.18
総利回り ⁽²⁾	(14.95)%	(23.85)%
補足情報：		
平均純資産比率		
営業費用及びその他費用	4.94%	4.99%
正味投資損失	(4.89)%	(4.94)%

(1) 期中平均発行済み口数に基づく。

(2) 各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記（続き）

2022年12月31日現在

（単位：日本円及び米ドル）

14. 後発事象

これらの財務諸表を作成するにあたり、経営陣は、当該財務諸表の公表が可能となった2023年6月29日までのすべての重要な後発事象を評価し開示した。

2022年12月31日より後に、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン・ゴールド円クラスに対し37,910,000円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン円クラスに対し1,500,000円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン・シルバー円クラスに対し4,000,000円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン・ゴールド米ドル・クラスに対し3,500米ドル、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー・ゴールド円クラスに対し500,000円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー円クラスに対し500,000円の申込みが処理された。

スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン・ゴールド円クラスに対し約33,515,466円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン円クラスに対し約9,091,059円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーン・シルバー円クラスに対し約691,187円、スーパーファンド・グリーンC円クラスに対し約2,580,291円、スーパーファンド・グリーンC米ドル・クラスに対し約73,517米ドル、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー・ゴールド円クラスに対し約11,647,062円、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・システムティック・オールウェザー円クラスに対し約75,474,851円の買戻しが処理された。

4. 費用の明細

(2022年1月1日～2022年12月31日)

項目	比率又は金額	項目の概要	
管理報酬	当サブファンドの純資産価額の年率0.10%	受託会社、事務管理会社及びカस्टディアンその他の者との間のやりとり、当サブファンドの活動に関連する契約の管理、申込及び償還を含む投資活動の運用管理の対価	
代行協会員報酬	当サブファンドの純資産価額の年率0.10%	日本の法令及び日本証券業協会の規則に従い、受益者への目論見書や財務書類を送付し、純資産価額を公表する等の業務に対する報酬	
受託会社報酬	当サブファンドにつき年間11,000米ドル	信託証書に従って行う当サブファンドの受託業務に対する報酬	
事務管理報酬	当ファンドの事務管理及び振替代行報酬	当サブファンドにつき年間5,400米ドル	各評価日における純資産価額の計算、受益権者名簿の管理、締結された申込に係る契約及び申込の受領並びに処理、電磁的方法による受益証券の発行証明及び保有報告書の作成並びに送付などの役務の対価
	年次財務諸表の作成	当ファンドにつき年間1,500米ドル	関連する規制に則した年次財務諸表（監査済み）の作成及びその補助の対価
	ポータルサイトへのFATCAデータのアップロード	当ファンドにつき年間500米ドル	当ファンドのFATCAルール遵守のための作業の対価
	ポータルサイトへのCRSデータのアップロード	当ファンドにつき年間500米ドル	当ファンドのCRSルール遵守のための作業の対価
販売会社報酬	当サブファンドにつき純資産価額の年率0.6%	販売の手配を行うことへの対価	
その他の費用（当期）	0.86%	監査費用、保管費用、その他信託事務の処理に要する諸費用	

(注1) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額を当サブファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2) 各項目の費用は、サブファンドが組み入れている投資先ファンドの費用を含みません。

5. 当期末における純資産額計算書

(2022年12月31日現在)

サブファンド・システムティック・オールウェザー	I 資産総額（円）	405,562,413
	II 負債総額（円）	3,470,417
	III 純資産総額（I－II）（円）	402,091,996
	IV 発行済数量	8,086,390
	V 1単位当たり純資産額（III／IV）（円）	49.72

6. 投資の対象とする有価証券及びその他の資産

(2022年12月31日現在)

	資産の種類	国名	時価合計 円	投資比率
サブファンド・ システム ティック・ オールウェザー	スーパーファンドSPCの株式(分別 ポートフォリオ・システムティッ ク・オールウェザー・ファンド・ クラスB日本の利益参加シェ ア)	ケイマン諸島	388,153,429	96.53%
	現金、受取債権及びその他の資産 (負債控除後)	該当なし	13,938,567	3.47%
	純資産総額		402,091,996	100.00%

7. 投資の対象とする不動産、金銭債権及び手形

該当ありません。

8. お知らせ

特にありません。

以上